

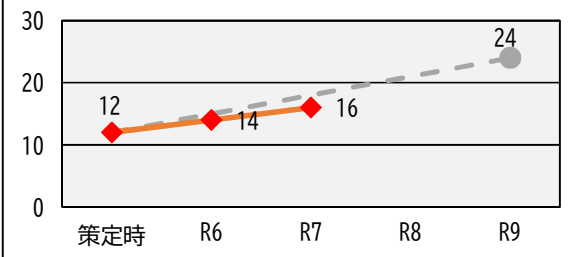
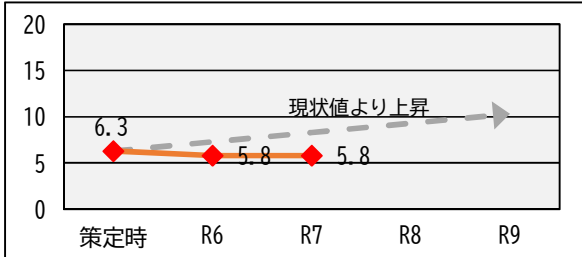
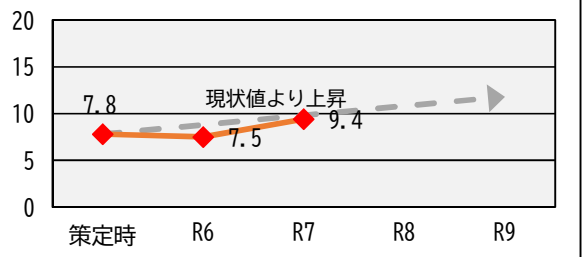
施策名	1 市民自治活動・学び			総合計画審議会からの施策目標の実現に向けた講評等	
R9年度末にめざす状態 （施策目標）【P】	自ら学び、地域活動や市民活動に取り組む市民が増えている	進 捗 度	C		

【進捗度】 A：４年後にめざす状態をすでに実現している、B：４年後にめざす状態の実現に向けて大変順調に進んでいる、C：４年後にめざす状態の実現に向けて概ね順調に進んでいる、D：４年後にめざす状態の実現には努力が必要である、E：４年後にめざす状態の実現には相当努力が必要である

(1)持続可能な身近なコミュニティづくり		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
①複合型コミュニティ「まちのえき」づくりに取り組む自治会に伴走支援を行い、地域のにぎわいづくりや、住民が協力してまちづくりに取り組む機運の醸成につながった。新たに子育て世代がスタッフとして加わるなど、多世代の関わりも広がった。②市民自治協議会については、令和７年度に新たな立ち上げに向けた動きが見られ、地域課題の解決に向けて主体的に取り組む機運の広がりが確認された。③連続講座の実施により、新たな市民活動を生むきっかけとなった。	No.1 複合型コミュニティ 「まちのえき」づくり	・令和７年度に４自治会、２拠点で新たに取組が始まり、市内で20自治会16拠点で複合型コミュニティ「まちのえき」づくりが進んでいる。
	No.2 市民公益活動の創出・発展支援事業	公益活動を行う８団体に補助金を交付。伴走型連続講座に働き盛り世代を中心とした15名が参加。
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
①「まちのえき」づくりは新たな取組自治会が伸び悩んでいる。また、補助金終了後に事業を継続・発展することが難しい自治会もある。②市民自治協議会は、東地区で動きが見られたものの、他地区への広がりがなく、既存団体の継続的な運営体制づくりも不十分である。③公益性の判断を固定的に捉えがちで、緩やかな地域参加の中から市民活動に発展させる支援が足りていない。	①「まちのえき」づくりについては補助金を継続するとともに、取組を周知し、関心を持った自治会に対して立ち上げ段階から伴走支援を行う。また、ネットワーク会議を通じて、取組の継続・発展を支援する。②市民自治協議会について、新たな動きのある東地区では一部の担い手に依存しない継続的な体制づくりを支援する。あわせて、他地区でも意向把握やワークショップ等を通じて地域の主体性を引き出す。③市民活動の立ち上げ、継続及び発展を段階的に支援する。	

(2)主体的な学びの場の創出		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・様々な市民団体やボランティアが協働し、他課とも共同で事業を実施することによって多様な市民の学びの場を提供することができ、多くの市民が参加した。 ・「ischool」や「いこま寿大学」、「働く大人の週末ゼミ」を通じて、全世代の市民が学び、交流する場を創出することができた。 ・老朽化した生涯学習施設の改修により施設利用者の安全安心を確保することができた。	No.9 図書館リニューアル事業	市民の学びの場であると同時に活動の場となるように新しい図書館へとリニューアルした。
	No.10 まちづくりの拠点としての図書館づくり	生涯学習課と「働く大人の週末ゼミ」を開催し、５回で310名と多くの参加があった。
	No.4 学びと活躍推進事業	子育て層を対象に17回の講座を実施したほか、ischool×多様な働き方セミナー合同講演会を開催した。
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・図書館を利用する人が固定化している。 ・多様化する学びに合わせ、柔軟に学びの場を提供する仕組みが十分に整っていない。 ・生涯学習施設の老朽化による突発的な修繕対応が多い。	・今後も市民と協働して図書館事業を展開し、リニューアルのオープニングイベントは種々様々なかたちで継続的に行う。 ・多様化する学びの場を提供するため他部署、他機関と連携した事業を展開していく。 ・生涯学習施設は指定管理者と連携し、適切に維持管理しながら計画的な修繕に向けた調査を実施する。	

(3)文化振興による市の魅力向上		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・市民主体の音楽祭を開催して生の演奏を身近に楽しめる機会を提供するだけでなく、チャレンジコンサートを開催することで「音楽のまち生駒」を発信し、事業に参加する市民のきっかけづくりとなった。 ・生駒ふるさとミュージアムを運営し、郷土の歴史文化への理解と学びを深める講座等を実施する中で、市の指定文化財を新規に指定し、次年度以降の企画立案が進んだ。 ・『生駒市史第１巻』『史料集第３集』『史料集第７集』の発刊や講演会の開催、ボランティアとの協働により郷土愛の醸成に寄与した。	No.11 「音楽のまち生駒」推進事業	「市民みんなで創る音楽祭」は10周年記念イベントを開催し、「満員御礼」となる公演もあった。
	No.12 歴史文化の発信	生駒ふるさとミュージアムにて企画展や各種講座等を実施した。市内小学校において茶道教室の開催を支援し、来館者の増加につながった。
	No.13 市史編さん事業	生駒市史第１巻、史料集第３集・第７集の発刊
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・「音楽のまち生駒」の認知は一定進んでいるが、参加する団体に偏りが生じている。 ・ふるさとミュージアムの施設利用率が伸び悩んでいる。 ・歴史に興味のない市民への普及に課題が残る。	・音楽祭に新たな募集枠を設け、次世代演奏家の発掘と市民が音楽に親しむ機会を拡大する。 ・新規に指定した文化財や市史編さん事業の成果を利用し、生駒ふるさとミュージアムの認知度アップに繋げる。 ・『生駒市史第２巻』も読み易く、手に取りやすい価格設定を検討する。発刊記念講演会を開催し、さらなる普及を図る。将来的には収集史料のデジタル公開を目指す。	

《参考》施策の進捗状況を測る代表的な指標【C】		
I 複合型コミュニティ（愛称：まちのえき）の拠点数(拠点)	II 市民参加が盛んなまちと答えた人の割合（％）	III 学習・文化活動が盛んなまちと答えた人の割合（％）
		

《参考》めざす状態に対する市民実感度	
「そう思う」＋「どちらかというと思う」と回答した人の割合	
【R7.12月】 23.1%	（参考）前回値 26.3%